

1973.12.15

サンパチ

ローバー

ボーイスカウト 京都第38団

青年隊 機関紙

創刊号

へ◎目 次 ◎

- 機関紙発行にあたって ----- 編集者
- ローバー隊の再編成に期待する ----- 末吉平克
- ローバー 徒然なるままに ----- 中村三え助
- ローバー 隊再発足にあたり ----- 原島和宣
- ローバー 隊再発足に思う ----- 大嶋正徳
- ローバー 隊発足に感じて ----- 榎本信也
- 私の考えるローバー ----- 大宮智一
- ローバー活動に思う ----- 今村晃一
- ローバー スカウトとは ----- 山副俊和
- 新ローバー隊に思う ----- 鶴田茂一
- ローバー隊への希望、抱負 ----- 宮西徳明

機関紙発行にあたって

先日、10月15日のRS集会において、サンパチRS隊の発足となり、17名の隊員各自が、スカウトであるという自覚のもとに、ローバーリングで実践することになりました。

そこで、活動のかとつとして、機関紙の発行となり、ここに創刊号を発行することになりました。この機関紙の名称はまだ未定ですが、誰か、良い名前をつけてくれることを期待します。

これから先、この機関紙が、RSの底流となり、意見を練り場となるよう心から期待し、サンパチRSの発展を祈ります。

サンパチRS、 弥栄

—— 創刊号、編集者 ——



ローバー隊の再編成に期待する

事務局々長 末吉平克

スカウティングに於て、ローバースカウトの活動、つまりローバーリングを行なわなければならない。スカウティングを論ずることは出来ない。社会人の中に、少年の頃スカウトに入っていたという人や割り合っているが、そのような人は、スカウトはどんなことをするか知っていてもスカウトの何をするかと言う資格はないと思う。これは、スカウト集団という組織にいただけであって、スカウティングという運動そのもののメンバーとは言い難いからである。カブ、ボーイ、シニア、ローバーはまだ単に、小、中、高、大の学校教育区画に對比できるものではない。ローバースカウトであるということ、大学生であるということには大きな差がある。

人間は、いかに生きるかではなく、いかに生きべきかを考えねば、本来の大人とはいえない。それを探究する時がすなわち、このローバーという青年の時代ということになる。このことは、全くスカウト活動を知らない人であっても、ただ制服を着ただけのスカウトであっても、直面する課題であって、何らかの方法で乗り切らねばならないのは、人それぞれ一途である。

さて、この時代の乗り切り方だが、同好会的な集団の内容にくらべて、RS集団のそれは、もっときびしいものである。ふつう集団を趣味的な集り、形骸化した集

団、或いは、飲んだり食ったりだべりぐですることに楽しさがある集団のようか、私から言わせれば、消極的活動集団（これが悪いとしているのではない）と、集ったことを——集団のメンバーとなったことを——基礎として、その集団でしか行なえない特色を見い出して、何をなすべきかを追求する積極的活動集団の2つの形態に分けられよう。ローバーリングを行なう集団は、後者の内容を持つべきであり、ローバーリングを行なわないのに、ローバー隊と名付けるべきではない。またRSになったというより、RSだというその自覚もなく、RS集団を自己に生かせる可能性のない青年にとって、RSの活動に参加することは無意味であるし、RS隊のメンバーたる資格を、少なくとも自分自身で放棄している。

今回、再編成にあたって集合された諸君は、自らRSを自覚した上で結集されたと聞いている。だから、今度こそ、サンパチRS隊は、組織上でも、実質面でも、スカウト運動の上でも、ローバーリングと呼べる活動になるよう期待する。ただ、B.Pも言うように、「自分のカヌーは自分でこげん」という言葉は忘れはならぬ。いかにあるべきかは、スカウト一人一人に分かっている。組織集団単位の成果には、乏しさに急ぐ必要はない。ゆるぎない未来に 弥栄！

ローバー隊発足に感じて

少年隊 副長 榎本信也

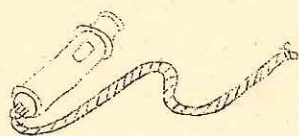
し各のはり返、此ざり知
 動。なり一サにけ遊禮又、バなう
 活はる前もバ競動なにも、上口こと
 うとえんつ一か行けたでの、此、こい
 かこ考半う口度やいっまでも動死をな
 此ろこ言「何えて知くた。活こい信
 こなるてに書考してあつてり
 が等にととも本」のか方、知すういしあ
 隊重グトの)のセ自を本と併解スに追隊
 一番コウ名いグク分、的、とは話し一
 一バーリカのなナサ自識はトにを当生実践バ
 ー、一ス分もり一局知れウとの本私実一
 口でバ、名ち一ウ結、こ力も、のを口
 の上一身義っバツ、の局スのくら身ダ
 足く口自大ぼ一、もう結、識いか自ンは
 発津の僕、れ口ブてれ、い知てだかりて
 新で自(でこシ、こばなな、自一く

てに想はるし中、雖もあ
長のはうで
成法のかの
の方だも
自るあ、う
をな、し得
を、念、ち
は、ぜ、あ、立
と、ま、な、で、り
づ、と、酌、の、成
ンの神もが
り人精き隊
ーのるべー
バ、と、う、バ
ー、通、言、一
口、共、も、口
い、と、い、

やうさ、
えりい、
き一舟、
なバ目、
ター僕、
色口、
、は、
もにか、
うかろ、
がいの、
なて、
きでれ、
著中さ、
その行、
るし身、
じの自、
信自分、
と自グ

が中上の
標年以こ
目、標日
、が百今
をい、く
こまはつ
て北にに
っし生目
あも小、
が今の身、
のめし自
ももな分
といバマ
間て一衆
人し口が
ッでて半
の人手人
げと
の一上
ハキ
海築

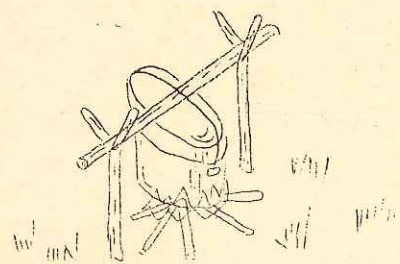
な、なも大でう
大殺れの、分ろ
ミ手し踐に思だ。
力も実分るのを
のなかの自すいそ
々重のトたとを登
個重るウツう、は
、のあかだこはト
のつでス知いでウ
て一隊、無てこカ
しくーリでしこそ
といバマケ出く前
間て一衆木船い人
人し口がッでて半
の人手人
げと
の一上
ハキ
海築



私の考えるローバー

一智島大

づ、リグ長で誰にのま頑じ
 づまん成しかつめり、
 カツイもそこなたかに、
 。テ震間かろる由グで、
 は、ろ、人、守、宿、こ、ン、グ、
 初、い、力、ろ、の、て、を、よ、イン、
 震、で、ス、あ、け、は、っ、の、身、テ、リ、
 。き、に、だ、れ、言、も、自、ウ、イ、
 た、で、後、ろ、こ、は、の、私、カ、イ、
 し、て、し、最、や、。私、ッ、ス、フ、で、
 き、違、え、を、い、。一、は、。の、
 き、に、。そ、れ、を、て、う、実、間、は、う、
 て、陸、し、し、え、は、え、あ、い、に、思、
 っ、段、歩、え、。で、あ、が、長、々、こ、
 や、う、違、。ろ、り、。が、た、人、る、
 を、い、と、す、あ、ま、す、し、し、た、え、
 ゴ、と、つ、ま、で、度、で、ま、か、れ、ら、
 ン、一、と、い、が、ろ、と、の、い、し、う、も、
 イ、バ、ッ、思、ン、な、こ、い、言、。こ、マ、
 テ、一、つ、こ、り、串、いた、と、ん、で、っ、
 ウ、口、と、だ、一、し、し、。セ、ん、と、
 力、在、の、の、バ、ろ、
 ス、境、。く、一、あ、
 ら、し、て、て、り、口、で、
 か、し、て、が、頭、
 頭、を、よ、し、の、集、
 の、に、歩、う、の、
 生、ア、陸、進、な、の、
 学、二、段、。行、も、
 小、シ、の、も、。た、
 、。う、て、が、肌、
 は、イ、肌、い、着、さ、
 私、一、を、お、た、立、
 波、に、し、確、



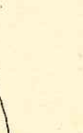
クーパー活動に思う

年少隊 副長 今村晃一

たやどは し、らて日暮
れ、隊え とらもん戸行
ざがーい 望みて工変り
表たバと 希だッリ太短。
えりーのえき動は敵やスゲのりか才と参う
とてにこそ言候。注何入い、う僕ろかたら當願
せ旧たくり、なはり。すりう思全に
散感。し良は云うばけて一う登取行うてう
解々た化、や能思れでしば思出も、かしよ
一薄う変さ。のどけいこ一とら華月点次つ
ばら思、引だ席るな無空口だか何先の。立
一がとと間裏出あしが内、のーに。えろり
口前が隊がた、や加道動くうりたう、え成
ち以さー一れは化参師活しなは新思も考も
パはまババの城、変れろてう行やもとグと後
ン僕、一選幕のあいしトで、ちろんた今
寸、リロ×歳なきもてをう体は持たりッ、
時は新、ば的肉とし。カ主て気えーだが



之に於ておみ迷うでの書ろの
 えがしつにぶて害の成さにこ
 まる。や来足かをな起章暗
 るりうの未、いか手、文暗い
 す一思分又にな目下改りの思
 計ばと色、ずは、がーことこ
 に一の、云せで綴のバ、いつ
 グロいけ、進歩の替る一でさ
 ンがでこ、進る、す田の間り
 りのしこはらわる深新の時練
 一も然ると何終が證であるを
 バの間こまででこもい集こ勝
 一で来るて態の間こでて向く
 ロ、形といいい状の時、折い
 のこのふ
 介分々々
 自、る時
 は、何し

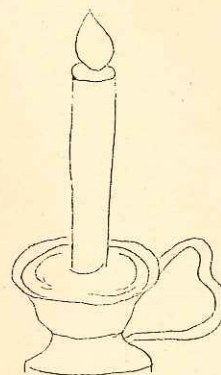
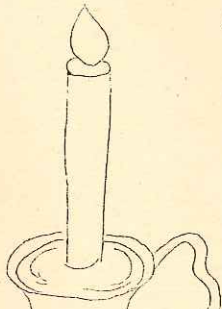


てで大も
 筆変、未
 今さ、旧来
 後置自口に
 て交、どし

ローバースカウトとは

山副俊和

ウと存今でもまた夫がバカ動うしを
 カカに、ん変うをで方一ろ活いかのた
 スの形し、今はア皆リ口あのとしもの
 リをかがつ事此ニこや、でて活。のも
 まも何しかのニシれくばきし生る中い
 あ僕。はい。何れで、改行うべとのあめた
 も、又リならもりイ、て存すん及は及き
 で、よりかてやボ、此の重は又足てて
 議しうしだった、実合。も身、痛めつ
 会た言ものなしに提をか動自し、も始や
 回ったがるにと中が力い活僕いとをて
 一だいのい一軸の動で本的、たく動つ
 第うないてバ主、活皆は人今しな活持
 て、よらなけ一を、存にで個てくくのを
 いるかめづ口、鑑し、的向方はしつす一味
 つあゆみかつら食い面方りて及を、バ興
 に激。つとが、よ外のやし。カに一し
 ト、るが、ででは、及いとだ金の口見
 ウがあれア。のけり、よ一らにも、発
 カ者でを二ういゆたて
 又いが、シ思存てけし
 バなしら、はわし、す羨
 一いたがイ身思さ
 口で、い一自は行
 たっほなボ僕と違
 来かとき、と
 出わこで、る
 に、る理、まい
 たが、あ表
 新グでて
 今、回、ン、リ、ッ
 テ、イ、



新ローバー隊に思う

鶴田茂一

ようやくシニアリングとは何かというのが、理解できかけたところなので、その点、ローバーリングとはなんであるのか、シニアリングとのつながり、相違などの点について、具体的に、たとえば、過去の体験、行動をできれば説明などしてもらいたいと思います。

今回シニアから上進した者と、ローバーとのつながりについて、隊リーダーなどになって、常いろいろと関係している方々がありますが、その他の人について、やはり初めは、何か話にくいとかいったようなことが、中にはありうる？（これは、ぼくの考えであります）と思いますので、このことについても、きがねなく話し合いや、議論ができるといった状態や、雰囲気というのを考えてもらいたいと思います。

ローバー隊への希望、抱負

宮西徳明

高校三年生としては、春まではR月活動を集会参加のみにとどめ、春からのローバーとしての積極活動に対する構想を練る程度にとどめたい。

一隊員としては、シニアの時のように隊活動が不活動に陥らないように、班員としての縦の関係、班同志の横の関係を隊としての活動がない時も結がっきが密であるように相互連絡網を充実させておきたい。

当面の課題として、詳しい年間プログラムを隊員相互の綿密な話し合いのもとで作ってほしい。そのために各隊員一人一人が、もっとローバーの意義についての考えをまとめ、話し合う必要があると思う。

〔今号の課題〕

ローバーリング = ツウ = サクセス を
読もう //

編集後記

まいへん遅れましたが、ここに無事、発行できることになりました。発行の遅れた点については、ここに深くお詫言致します。

今回、ローバー隊諸君、全員に原稿を依頼しましたが、約半数の隊員から、提出されたにすぎません。編集者として、大変、残念なことだと思います。この機関紙発行は、これから先も続きます。それら、未提出諸君のこれから先の協力を期待します。ただし、利根川君からは、原稿が提出できない由、連絡がありました。この場に、報告しておきます。

最後になりましたが、発行にあたり協力していただいた、先輩諸兄、ならびに、ローバー隊諸君に深く感謝いたします。皆さん、どうもお疲れさんでした。

—— 編集者 ——

サンパチローバー

昭和48年12月15日 発行

1973

非売品

編集者

野崎正和

印刷所(所)

サンパチ末吉印刷所

発行者

ボーイスカウト京都第38団
青年隊